# アッセンブリー総評　乙２１テーブル

文責：野口（明治４）、橋本（上智４）

テーブルメンバー

布川（立教２）、神崎（フェリス３）、天野（青学３）、若原（東洋２）、田中（青学２）、赤江（青学２）、内村（立教２）、道下（明治３）

～はじめに～

以下に１、議論の流れ　２．順位と選定理由　を記しますが、客観的に見た一つの見解として読んでいただけると幸いです。疑問点あれば一報ください。

１．流れ

唯一立候補した布川がオピニオンプレゼンター決まり、議論はスタートした。臓器移植をトピックとしたユージュアルなオピシで、ASQ は特筆すべき点はありません。

・NFC（天野のオブジェクション）

NFC へのオブジェクションという形で出されたが、実際には NFC は認めてはいるが msb for TG を検証すべきだというサジェスチョンであった。検証すべき理由は臓器移植後の拒絶反応によってより一層苦しむことになる可能性があるため、ということだった。布川によってのちのコンパリゾンエリアで話そうという提案がなされるが、天野は通常のコンパリゾンで話すことは不可能だという主張をする。内田により皆オピメの NFC に反対はないのだからとりあえず先に進むことができるという共通見解が整理され、結果天野も納得の上 AD が確立したあとに再度 msb fot TG を確認すべきかどうか議論されることとなった。

・SOL（神崎のプラクティカビリティへのオブジェクション）

オピメのプランは脳死者に移植を強いることになり、無実の人に死を強制することはできないという理由での反論であった。布川、天野によってなぜいけないのか、憲法違反とは何かといったような神崎のアイディアを理解するような Q が飛び交い、①脳死者は無実であること②死を介する強制であること　が神崎的憲法違反の解釈であると判明した。そこで布川が SQ でも臓器提供に反対している可能性がある人も家族の意思により臓器提供が強制されているため APA でも違法にはならないという反論を出すと神崎がこれに反論。家族の同意があれば強制してもよいのかという別の論点が追加されたものの何をもって神崎が反論しているのか、逆にどこが証明されれば先にすすむことができるのかが不明確なまま多方面への反論意見（ただし検証はされず）のみがテーブルに出され続ける状態が続いた。一時間半が経過し、内村と天野によって

論点が細分化され、布川の最初のエクセプションをようやく再確認する流れになり、これが認められたため神崎はDATGに脳死者を置いたアイディアを出すことになり話がまとまった。

布川のADが立証され、天野のオブジェクションへ（msb for TGを検証すべきか否か）ADDAコンパリとは別にTGコンパリをしたい天野と分ける必要はない（先にmsb for JNを検証して CCL 得た後にやるべき）と主張する布川が対立する形となり、互いに真逆の主張を繰り返し一時議論は停滞するが、天野が OP 布川が msb for ADTG という考えがあるなら（そのロジックを見せれば）妥協するから通常のコンパリを先にやろうと提案し布川がロジックを書く。その一方で内村が天野のTGコンパリアイディアに対し拒絶反応で苦しむ患者はそれを知ったうえで臓器提供を受けるのだからその苦しみは自業自得なのではないかという意見が出され、論点が散漫しかけたところで３時間が終了した。

２．順位とその選定理由

一位：天野（乙一ランク）

主張が対立し停滞した議論に対し、大きくテーブルを動かすというよりは潤滑に話せるよう終始土台を整えていた点を評価しました。このテーブルでは相手の話を理解しようというより主張を互いにぶつけあっていたため話が平行線になり逆に時間を使ってしまうところが見られましたが、コンスタントに物腰柔らかくうまく間に入ったり妥協点を探して議論を整理し浸透させ、先に進めようとしていたので乙一としてふさわしかったと思います。時間を考慮しもっと議論を先導する意識を持ち、自分の TG コンパリの話に時間を割けるよう打算的になってもよかったかもしれません。ただ、テーブルを落ち着かせるカンファメや柔軟な判断能力は今後是非後輩に引き継いでいってほしいとおもいます。おつかれさまでした！

二位：布川

オピニオンプレゼンターとしてADを立証した点、また早い頭の回転を活かしてアイディアを出し、人一倍議論を先に進めようとしていた、そして実際に進めていた点を評価し二位としました。自分の主張に基づき議論を進めようとしていたのは良かったですが、相手の理解度や意見に合わせて提示方法を変えたり、相手を意識した話し方をするとより早くまとまります。布川の議論の飲み込みが早いからこそこのテーブルの理解が追い付かず、指針は正しいのに浸透しない事態がすごくもったいなかったです。競技の性質上、色んなテーブルで議論することになり、もちろん人によって理解度は違うので、議論全体をマクロにかみ砕いてその上で自分の主張ができるようにな

るとどんなテーブルでも活躍できるようになります。いいところはたくさんあったので、それを活かして来年絶対ランク取ってください期待しています！

三位：内村

限定的でしたが時折見せる客観的でマクロかつ的確な介入がよかったですが、もっと早く言ってほしかったと何度も思いました。介入のセンスに自信をもって更なるスキルアップを目指してください。

四位：神崎

僅差での四位となりました。アイディアを出して議論を深めようとしていたところがよかったです。相手の言っていることが違うと思ったら、もっと具体的にいうようにしてあげると論点が絞られて話すべき点が明確になります。成長に対して貪欲で、ひたむきに頑張り続ける姿はかっこよかったよ。これからもフェリスを引っ張っていってね。

五位：若原、赤江、田中、道下

アッセンブリーの６時間を振り返るだけでも、成長につながると思います。この総評が少しでも役立てば幸いです。おつかれさま。